

令和8年

二十歳のつどい

未来への一歩を踏み出す

令和8年の式典対象者は、平成17年4月2日から平成18年4月1日に生まれた275人(男性152人、女性123人)。1月11日の式典当日はそのうち195人が来場し、中央公民館「邑の森ホール」で開催されました。

会場には、華やかな振り袖や羽織袴、真新しいスーツに身を包んだ二十歳の若者が晴れやかな笑顔とともに集い、懐かしい顔を見つけては互いを祝い合いました。式辞に立った橋本光規町長は「今年の干支は『うま』」

橋本町長

古来より馬は、勇気と自由、そして道を切り拓く力の象徴とされてきました。たとえ、どのような困難に出会ったとしても、馬が荒野を駆け抜けるように、希望を胸に前へ進んでほしい」と激励しました。

続いて松島茂喜町議会議長は「迷ったときには、損得よりも善悪で物事を判断してほしい。困ったことがあれば役場や町議会議員を頼ってください。皆さんの輝かしい未来に幸多からんことを心よりご祈念申し上げます」と祝辞を述べました。

松島議長



掲載しきれない写真
少しだけあります

Photo
Motto



企画から準備、当日の司会進行までをやり遂げた二十歳のつどい実行委員の皆さん。左から北村心望さん(谷中蛭沼・11区)、山口未末さん(十三坊塚・6区)、村上荘太さん(千原田向地・9区)、米山昌希さん(大谷端宿赤東・31区)、山本耕太郎さん(光善寺・15区)。

激励と祝福を受けた二十歳を代表して村上荘太さん(千原田向地・9区)は謝辞の中で「青春期にコロナ禍という未曾有の時間を過ごしました。そんな中で、両親は家庭での支えや不安なときに寄り添ってくれ、進路の相談に真摯に向き合ってくれました。先生たちは、急な環境変化の中でも学びの場を守り、私たちの成長を諦めずに導いてくださったことに心からお礼を申し上げます」と感謝を述べました。そして「二十歳としての自由と権利を得る今、その責任を果たし、行動で示していきます」と決意を新たにしました。

実行委員長 村上荘太さん

